

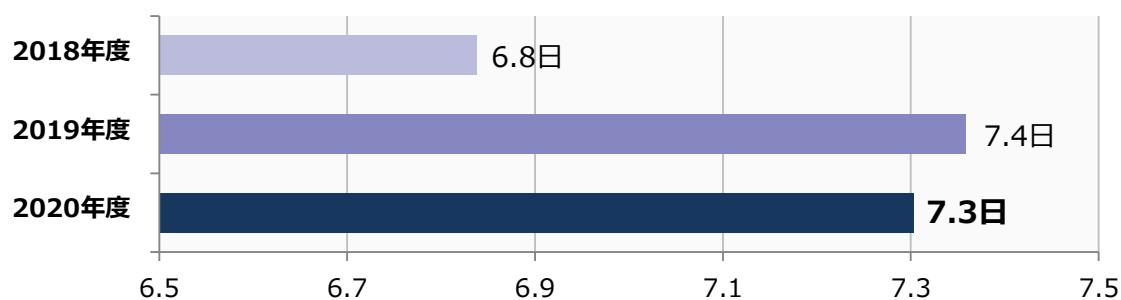
# 人工呼吸器装着患者の平均装着日数

VAP (Ventilator Associated Pneumonia=人工呼吸関連肺炎)は気管挿管・人工呼吸器開始後48時間以降に新たに発生した肺炎であり、気管挿管患者全体の9~24%に起こるとされています。

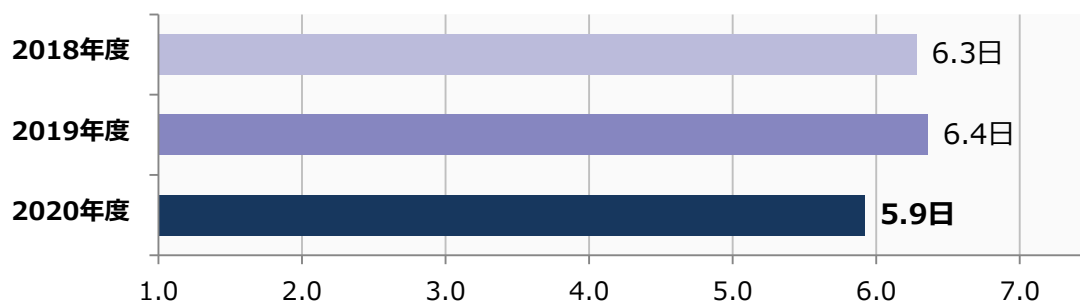
その中でも、気管挿管後5日以降の比較的遅い発症のVAP患者では、多剤耐性菌が起炎菌で予後が悪いとされています。VAPを発症することで、明らかに予後が不良となり、ICU滞在日数も長期化します。VAPの発症リスクを減らすには、早期の呼吸器ウィニング、抜管が望ましいことは言うまでもありません。

当院における人工呼吸器装着日数の平均値を把握し、VAP低減のため1日でも人工呼吸器装着日数を短くすることが、入院日数の短縮・医療費の削減・病床稼働率をあげることに繋がると考えます。2016年度から「救命センターを含む全病棟」と「救命センターのみ」でデータを分けて算出。これにより「救命センター」では急性期でいかに早く人工呼吸器を離脱するかが課題となり、チーム活動につなげることができます。

## 【全病棟】



## 【救命センター】



## 当院値の定義・算出方法

**分子：**人工呼吸器装着の総日数

**分母：**人工呼吸器装着患者総数

分子/分母を月別に計算し、平均を算出した。（※一般・救命含む、気切患者含む、NPPVは除く）

## 改善策について

2020年度は、RSTチームとして長期呼吸器管理患者には積極的にチーム介入すると共に、重症呼吸不全患者に対しての腹臥位療法(16時間実施)を導入しました。その結果、「全病棟/救命センターのみ」いずれもわずかではありますが「0.06日/0.44日」と呼吸器装着日数の短縮を認めました。

また、2020年度1年間で3例は、呼吸中枢の障害などにより「自発呼吸がない患者」であり、人工呼吸器離脱は不可能であるため調査対象から除外しました。

文責：RST(Respiratory support team : 呼吸療法チーム)委員長  
古山 和人